十八日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　大岡田弘成
印刷
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

小名濱町議當選者
棄權僅か六十一名

小名濱町會議員選擧は十七日行はれたが投票總數千四百二十四票で有効投票は千四百十票無効十四票棄權六十一票で當選者左の如し。

九六票　吉田龜之助（政）
九五票　小野德藏（同）
九三票　小野晋平（同）
九二票　小野務平（同）
九一票　立花雄七（同）
八五票　中野鐵之助（同）
八四票　小濱長太郎（同）
七五票　草野良太郎（同）
七三票　岡山重喜（同）
七三票　小松力（民）
七二票　堀越新平（政）
六五票　小松重兵衛（同）
六四票　佐川松太郎（同）
六二票　熊谷寅次郎（民）
六二票　菅原彌作（同）
五九票　野崎長太郎（政）
五九票　江尻甚太郎（政）
五二票　杉本德次郎（同）
次点五二票　村上淨代二（同）
六票　伊藤隆次（中）

勿來市場に
共同出荷

勿來町養蠶同業組合では利益の均等並に價格の向上から生繭の販賣斡旋に努めつゝあるが買氣各社共漸く旺盛になつた勿來繭市場に約三千貫の共同出荷販賣を行ふ筈である農家昨今における極度の不況から非常に賣先を急ぎために往々好商の手に惱まされるゝ傾向多きうちに同町は殆んど一般商人の出入なき有樣で今回の擧に對しては附近町村より模範として羨望されてゐる。

新舊町議
慰勞懇親會

平町二丁目新町會議員關内正一氏、舊町會議員柏原眞吾、丹野榮三郎兩氏の慰勞會並に祝賀を兼ねた懇親會は二十日午後五時半から谷口樓に開く筈で會費一圓五十錢である。

出廻りの最盛で
目の廻る四倉市場

四倉繭市場の取引は去る十三日から開始したが十七日頃から出廻りの最盛期に入り今十八日は朝來山をなす出荷で所員が整理に忙殺され臨時雇人を使つてゐる有樣で恐らく本年出廻りの絶頂であらうと思はれる、昨十七日の取引は白繭千九百五十貫が最高八十五圓最低六十五圓三十錢平均七十七圓八十錢、黄繭二百五十六貫最高七十六圓十錢、最低六十五圓五十錢、平均七十二圓二十錢である。

▲石城農試田植　農事試驗分場では今十八日及十九の兩日田植を行ふ筈であるが例年より二三日遲れてゐると。

鑛業税滯納は
近く全部整理

平税務署における各種税滯納は鑛業税が大部分をしめてゐたがこの大部分は各小炭礦で何れも過般の水害に大打擊を受けてゐるので同署では去月三十日最も危險と思ふ川瀨炭礦の滯納を兎も角非常手段に依てつ徴收した爲休山となつても一安心をした氏、その他小炭礦も或ひは休山とならぬとも限らぬので近く全部の整理をなすべく目下準備中。

▲共濟委員任命　平町東部月見町、鎌田町、立町方部は過般の洪水で浸水したので今十八日臨時清潔法を施行する。

▲東部衛生掃除　平町門傳清吾、猪狩庄平兩氏は今回本縣共濟委員を嘱托された。

▲末廣主人葬儀　平町田町料理店末廣主人比佐七十二氏は永らく病氣療養中の處十六日死去したので十八日午後三時自宅出棺平町良善寺に於て佛葬組合の如き既に四萬六千余圓の賦金を得て築港改修の費用に充を營んだが盛葬であつた。

平水道の擴張工事
着工は十月頃か
書類停滯で認可遲れる

平町上水道擴張の工事は未だに認可されぬため當局でも氣を揉み去る十四日河野水道課長が急遽上京内務省に出頭認可方促進の陳情を爲したが提出の書類は目下同省衛生局に停滯して居たので極力運動した結果漸く大藏省に廻附するまでにこぎつけて歸町した。然し認可の指令に接するのは早くとも八月頃となるらしく從つて上水道擴張工事に着手するのは十月下旬頃となる模樣である。

濱通りの
定置漁業

縣下における漁業は近時遠洋と近海とを問はず科學の應用と資本の增大により著しき發達を遂げつゝあるが縣又これ等に對し各種補助を交附し大いに奬勵しつゝある殊に近海漁業に至つては個人營業の小型船よりは合同による共同經營に移りその主重なるものとしては多年の經驗と大資本とを要する定置漁業を企つに至り先に豊間大敷網漁業の開始するにおよんでその後江名小名共同、久之濱、鳥濱等相次いで大敷網又は大謀網により相當の成績をあげつゝある現況であるこれによる時その濱漁業組合は投網により毎年何百圓かの契約金を徴收し得られ組合基本財産造成の唯一事業として大いに歡迎されつゝあり豊間漁業組合の如き既に四萬六千余圓の賦金を得て築港改修の費用に充

江名町の選擧違反
召喚者四十余名

江名町に於ける町會議員選擧に伴ふ違反事件の檢擧は昨報の如く平區裁判所から武田、三笠兩檢事が平警察署に出張し十七日關係者十五名の取調べを行ひ更に今十八日は二十數名を召喚兩檢事が昨日同樣平署に出張樓上に於て伊藤、鯨岡各警補部と共に嚴重なる取調べを行つてゐる果て十六日最も恐るべき疑似傳染性貧血症と決定したが蔓延のおそれあるので同地方は大恐慌を來してゐる。

約の下に同海岸より沖合三千間江名、小濱兩組合大敷網の南方五千二百八十間の地先に最近式の定置漁業角輪組漁業を營むべくこれが免許方を先に縣へ出願しその後急速許可されたいと地元關係者が地方選出古川縣議など共に屢出縣陳情してゐるのが良い然し中年以上にて紹介所の手を經て行つた者は十人のうち七人までは就職後間もなく飛び出し眞面目に勤めて居る者は僅に三人に過ぎず極めて不成績であるこれは就職後仕事の性質或ひは使用方法にも幾分の欠陷はあるが主なる原因と見られるのは失業者がいよ〳〵進退に窮した揚句一時凌ぎに仕事の性質雇先の如何を考へず飛び込むと云ふのが原因であるが同所ではこれを如何にするかと目下種々考究中である。

中年者は腰が
落ち着かぬ

平職業介所では本年三月以降同紹介所の手を經て就職したものゝ就職狀況につきこの程調査したところに依れば小學校を卒業して直に職に就たものは何れも成績良く求職者方面でも頗る受

▲馬貧血病發生　石城郡三坂村大字中三坂大竹松伊氏所有にかゝる雜種牝馬十五歳は田村郡夏井村上野獸醫診斷の結果十八日午前二時十分頃平町材木町飲食店根本松太郎方煙筒の下から發火したのを折よく發見したので大事に至らず消し止めたが場所柄とて警鐘亂打したゝめ一時は大騒ぎであつた、損害三圓で原因は煙筒の飛火である。

今曉材木町の小火
場所柄とて大騒ぎ

▲自轉車競走大會　石城郡内郷村自轉車組合主催自轉車競走大會は十六日午前十時から同村小學校庭に於て開催したが日曜日のため頗る盛會であつた。

初夏散見

武藤生

町議選擧の爲めに過ぎ去つた十數日の間と云ふものは好きな讀書に沒頭する余裕がなかつた、私の机上には新潮、文學時代、文藝春秋、文藝戰線戰旗等の雜誌と數冊の單行本とが空しく投り出された儘である、いつもなら月の初めには之等の雜誌などはとうに讀んでしまう筈であるのに、新刊書と雜誌に接したとき現出する凄々たる讀書慾の無いのは疲勞のためであるかも知れない。

老人と青年とは總ての点に於て人生の兩極に立つてゐると言ふてよからう。或る町役場の小使室で一人の青年が小冊子を讀んでゐた、その室には青年のほかに三人の町會議員と一人の新聞記者がゐた、と。老人は讀書してゐる青年に向つて言ふた「君の讀んでゐるのは町村制の本かい」青年は書籍から眼を放して「いや、これはルパンです」と答へた「そうかね、近頃の若者は町村制など讀んで理屈を言ひたがるから、君の本もそれだと思つた、なァに町會議員なんぢァ不解らなけりやあ理事者に聞けばよいんか一勿論この老人には探偵小説の巨人セリス・ルブランの存在など更に解らないし壯快極りなきルパンも知らないのだ、甚だ失禮な想像だが「ルパン」は「アンパン」の兄弟分だ位には考へたかも知れないと思ふ。多數派の横暴と鬪ふことは青年にとつて愉快なことの一つだ、言説と神陣とによつて彼等の正体を赤裸々に曝露し興論を擁げて彼等に皮迫するのは青年のみが持つ戰術であり武器でなければならない。

商店臺帳通帳 違反檢擧

平稅務署では去る七日から管内全部に亘り各商店の臺帳通帳の臨時檢査を執行した結果違反十七件を檢擧したが本月一月から六月まで六箇月間における違反檢擧件數は實に百四十七件の多きに達した。

俳句片々（八）

曲水雜詠　三木谷鵑子選

括られて春淺き桑の容ちかな　杏坡子

余り形式的に走つた型があり「春淺き」を別な用語なり、新体語にて表はしたなれば充分に救はれるのである。括られてある桑とは、秋、畑を耕すに枝が邪魔になるから縛り付けて、春、新芽が生ふ頃にほどくのであります。

此の場合、春を表はすのには括らされてある桑とは「春淺き」を説明したものであるから、改めたて「淺き」を加へた事は句が重復するからであり、敢て「淺き」は必要のない、無駄な用語である。

時折斯うした句が見受けられるが、此句の欠点は之れまで余り短所が大きがつたものであつたが、此句は長所であるが短所に一寸氣付かれないからであつた。其部分丈けを解釋した譯である。

脂ら燃ゆる音いさぎよき秋刀魚かな　同

秋刀魚の嗜好慾が適確に唆られてゐる。秋刀魚を喰べたと思つて、空腹を抱いて秋刀魚を燒いてゐたのだが、強い脂肪分がいさぎよき音を立て乍ら燃いてゐる。其の脂の匂ひが鼻の中に感じた時、堪り兼ねて一掴みした樣が連想されてある。

句意が強く秋刀魚の匂に刺戟されてゐるばかりでなく、嗜好慾に生きてゐるのが此の句としての特長であり、殊に好く描かれてある。

錢湯の皆腰折れし團扇かな　曉村

夏の湯上りの實感句、蒸し暑い炎熱を湯に依つて幾分か汗を凌ぎ、湯氣に惱む人達の心根が動いてある。

冷酒や馬の鈴鳴る驛夕べ　同

一日の仕事が終えて休んでゐると、馬の鈴が夕靄に聞いて來る、馬子が疲れた体を居酒屋で安價な冷酒を呷いて、疲勞を慰やしてゐる。此句は季題が失せてあるからには雜の部に入りは本質は無論零ではある、選者の概索に季題を認識して採用した前後共に立派な月並調であり恐らくは月並調の本領を發揮した点では、此句が最も代表的な巨作である。

時報文藝

訣もなく

代志美

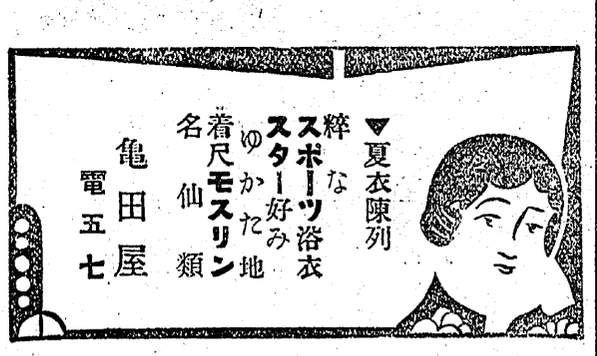
富士の山は日本一ね
貴方は世界一だわ
どうだか
うそ言ッたつてはじまらないね
切もないさ
切れたら何うするの
俺はだまつて仕まつた
あら御めんね
ほッそり仕た顔がのぞき込んだ

なんでもないよ
訣もなく淋しい
涙がホとり
ホーにさわッて

町田　佐藤宙宇二

一、ひねもすの田の仕事終へ歸り道今日も聞きけり河鹿鳴く聲
一、杏の樹に四十雀鳴く昨日今日吾が心には憂雲のあり
一、五月雨や里の夕べに灯の灯り唯淋しなり戀歌をきく
一、新聞を見て居し父は昨日の漫畫の如くほゝ笑みにけり
一、自轉車を打ちつけられし姉上は見るのも厭ひ家に居るなり
一、夕刻に來し友よりの手紙にはいつものくせのお早ようとあり

貸家あり
住宅向き
商店向き
委細面談
平町新川町
中野勇吉


▼夏衣陳列
粋な
スポーツ浴衣
スター好み
ゆかた地
着尺モスリン
名仙類
亀田屋
電五七

内臟外科
骨關節外科
整形外科
專門
藤本順

產婦人科
外科
產婦人科
木村寅次郎
平町新川町（電話一六四）
木村病院

君はいゝ型の洋服を求められたね。誂かへ？いや君コレは例のソレ正札堂さ

平町停車場通
正札堂

流下藥
月やく止まり心配の方は四五ヶ月以内安心、確實、無害に流經する保證付（無効返金）强烈特殊藥をすぐ用ひなさい。
◎他藥の如く服藥で無く、局部に挿入する劇しい藥です
定價金四圓
頑固用金七圓
（電話八二七番）
平町田町
宇佐美藥劑士
◎中產以下の方には商品二割引……
◎三重縣人には商品三割引……

藥學博士　丹波敬三先生製藥指導
醫學博士　豐島豐次郎先生動物試驗
咳止の妙藥
オピール錠
特約店　平町一丁目（電話四六二番）
大平屋藥店

亡父七十二儀送葬の際は御鄭重なる御香奠を賜り且つ遠路の處御會葬被下御厚情難有奉深謝候一々拜趨御挨拶可申上の處乍畧儀以紙上御禮申上候
六月十八日
石城郡平町田町
喪主　比佐三郎
外親戚一同

氷水始めました
アイスクリーム・ミルクセーキ
其他清涼飲料物一式（電力應用）
夏期中蒲鉾を休みます
電力應用
出揃迅速
藤市
電話三〇五番

診療科目
外科
內科
花柳病科
一般外科
診療時間（午前八時より午後九時まで但し急患は此の限にあらず）
▲診療時間
平町田町大通り（電話四三六番）
入院隨意
安齋外科醫院
切取線

名題
尾上菊三郎
音羽多見丸
大一座
讀者觀劇券（此券持參の方は金十錢）
六月十八日より
聚樂館で
磐城時報社發行